

平成24年度 長岡市地域コミュニティ事業補助金交付事業実績報告書

平成 25年 1月 10日

長岡市長 森 民夫 様

申請者 住 所 長岡市川口木沢708

..... 団 体 名 フレンドシップ木沢

..... 代 表 者 会長 小林正利

印



平成24年度 長岡市地域コミュニティ事業補助金交付事業について、下記のとおり報告します。

1 事業名	木沢の宝で結ぶ きずなの交流看板プロジェクト②		
2 事業の実施期間	着手	24年 5月 1日	
	完了	25年 1月 6日	
3 事業の主な実施場所	長岡市川口木沢		
4 補助金額	214,000 円 ※下記(F)の額を記入		
	交付決定(交付済)額	補助金額(F)	返還額
	214,000 円	- 214,000 円	= 0円
5 補助金額の算出根拠 ※第7号様式の数値と合 うように記入してくださ い。	支出の部合計(A)	補助対象外経費(B)	補助対象経費(C)
	272,139 円	- 0円	= 272,139 円
	事業を実施することによって得られる収入のうち、補助対象経費に充てるもの		特定財源(D)
			= 0円
	(C)-(D)=補助金算出対象額	(補助率)	補助金額 (E)
272,139 円	× 80%	= 217,711 円	
補助金額 (E) の千円未満切り捨てた額 (F) ※上限は交付決定額です			214,000
6 添付書類	<input type="radio"/> 事業実施報告書 (第6号様式) <input type="radio"/> 事業の収支決算書 (第7号様式) <input type="radio"/> その他資料 成果品、写真、支出証票等		



事業実施報告書

事業名	木沢の宝で結ぶ きずなの交流看板プロジェクト2
	<p>【目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 木沢・峠集落における宝（地域のくらし）を表現する看板を作成し、当該地域を訪れる人を楽しんでもらうための仕掛けづくりをする。 2. 看板を作成する過程を学生を中心とするボランティアと一緒に活動することで交流の幅を広げ、木沢ファンを獲得して少子高齢化に悩む地域に若者を招き入れ、お年寄りの元気づくりを図る。 3. 木沢の暮らしを再確認することで、木沢に住み続ける誇りを作る。 <p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 交流看板の制作 木沢・峠集落における地域の暮らしを前面に打ち出した交流看板を設置し、集落の住民が楽しむだけでなく、当該地域を訪れる人を楽しんでもらうための仕掛けづくりをした。昨年度の夏に続き、春と冬を制作した。 昨年度、木沢集落の住民参加が少なかった反省点を改善し、大学生と協働を進めることができた。 2. 交流看板設置の効果と継続 看板を作成するだけではなく、制作過程を大学生と一緒に作業をすることで、交流の幅を広げ、木沢ファンを獲得し、少子高齢化に悩む地域に若者の存在でお年寄りの元気作りに寄与した。また、学生には木沢集落にくらす知恵や技術を知ってもらうことができた。 3. 木沢集落の良さを確認した 今回のテーマが、木沢の今のくらし（春）と昔のくらし（冬）であった。このヒアリング過程で木沢の住民が木沢の風景の良さや昔の懐かしい暮らしについて話す機会ができたり、実際に絵として表現されたことで木沢を訪れた人に説明することが増えた。 4. 木沢集落の宣伝効果 各報道機関に取り上げられたことで、木沢に来てくださる方が増えた。また、NHKによって全国放送されたことで、親戚などから連絡が入るきっかけとなったりしている。 報道機関ではないものの、川口地域の写真倶楽部「かたっこの会」の被写体などにもなり、川口温泉での写真展示をしていただいたりしている。 5. 学生の成長の場 昨年に引き続き、長岡大学の学生が中心になって協働作業を実施した。計画段階からの相談やデザイン制作にかかるプレゼンテーションなど、社会に通じる勉強の場になった。また大学間での協力もあり、広くコミュニケーション力を身に着ける場となっていた。

【内容】

※事業の種目ごとに、実施年月日、参加者数、実施の具体的内容等について詳細に記入ください。

1. 計画、デザインづくり

5月12日 道プロジェクト会議 参加者 木沢4名 長岡大3名
・実施スケジュールの調整と現地確認



5月19日 「春」取材 参加者 長岡大3名 新潟大1名
・フレンドシップ木沢主催「山菜ふれ愛ツアー」参加
山菜の採れる場所、生え方、名前などと共に、春の木沢の風景を取材



事業の
内容



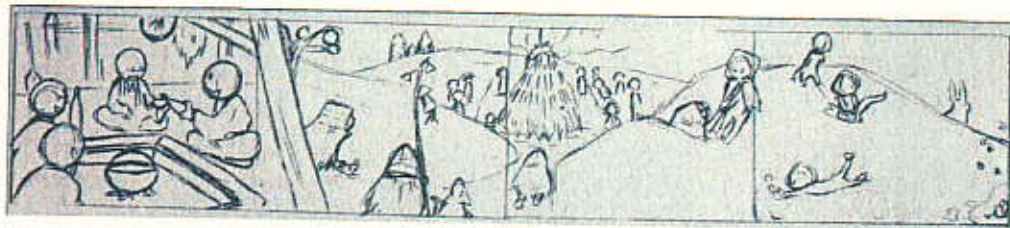
6月28日 フレンドシップ木沢 定例会 参加者 木沢10名 長岡大 3名
・デザイン案(ラフ)提示
アイデアの追加、修正など、要望の調整



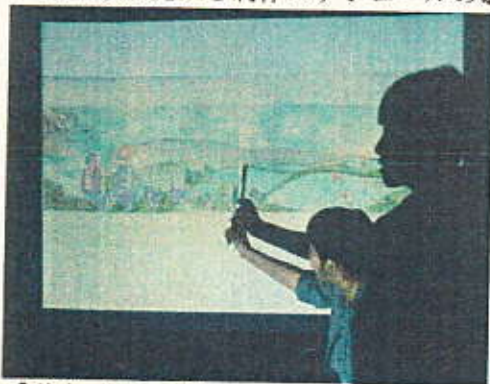
【春】



【冬】



7月23日 フレンドシップ木沢 定例会 参加者 木沢14名 長岡大 3名
・デザイン案(イメージ・着色)提示
修正案の提示と制作スケジュールのお知らせ



【着色イメージ】

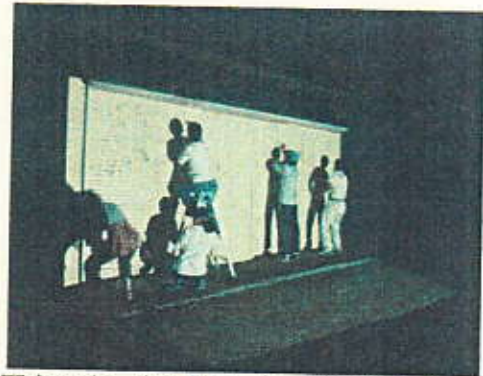


2. 交流看板の制作

8月11日 参加者 木沢7名 長岡大5名 産業大4名 その他4名
・さび落とし、下地作り



8月16日 参加者 木沢5名 長岡大6名 新潟大1名 その他1名
・転写



8月17日 参加者 木沢6名 長岡大6名 新潟大1名 その他1名
・主線描き、描画作業



春



冬

8月20～24日

参加者 (のべ) 木沢 24名 長岡大 24名 新潟大 7名 その他 5名
・ 描画作業



まずは色作り



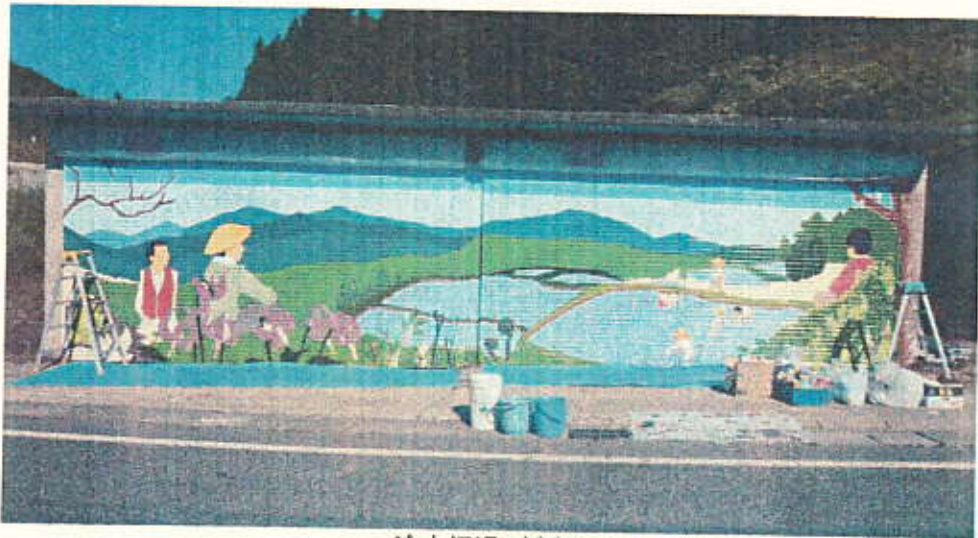
交流会でチームワークづくり



道行く人が話しかける



連日、炎天下の作業



途中経過 (春)



途中経過 (冬)



暑い路面に座っての作業



全景



完成間近



終了!

完成作品
【春】



【冬】



各全景

9月15日

仕上げ作業 参加者 木沢7名 長岡大3名 その他1名



絵を守るためのコーティング作業



記念のサイン入れ



全体の作業



打ち上げ交流会

3. 秋の取材

10月、長岡大学による秋の資源調査が行われ、フレンドシップ木沢のメンバーと一緒にヒアリング調査、写真によるデータ収集が行われた。

<p>事業の実施による効果</p>	<p>1. 交流看板「春・冬」の完成</p> <p>昨年の「夏」完成直後から、「続きはできるのか?」「いつ作るんだ?」「どんな絵になるんだ?」といった関心が寄せられ続けていた。制作の途中からも集落のお年寄りには、「夏ができてから、ここを通るたびにうれしくなっていたが、今年はずっと増えて“うきうきする”よねえ。」「木沢のことをこんなに調べてくれて描いてくれて、本当に良かった。」といった声が上がっている。</p> <p>昨年以上に制作過程での見学者があり、集落内はもとより、通りかかる人がみな一様に車の運転速度を落とし、また下車して話しかける・写真を撮るなどの行動になった。この中には「昨年見たから、今年もやっているかと思って。」と話される方があり、木沢のファンづくりは着実に進んでいると実感できた。また、わずかではあったが見学に来た人が二十村郷盆踊りにも参加するなど交流の内容に広がりも見られるようになった。</p> <p>2. 在県3大学との連携</p> <p>本年度の交流看板は、長岡大学の地域ボランティアサークル「N-LINK」が中心になり、新潟大学「越後∞」や新潟産業大学の有志の協力を得て、木沢衆との協働で描かれた。集落にくらすものと大学生の交流は、互いに刺激をして元気になるが、今回は大学生同士の交流もできたことで、「木沢でできたきずな」が新しく生まれたことになる。また、プレゼンテーションなどを通して大学生自身の成長にも寄与した。</p> <p>3. 今後の展開</p> <p>来年度制作予定の「秋」で一連の作業と、看板製作の完成を見ることになる。残りの秋の取材はすでに終了しており、準備はすでに始まっている。来年度も長岡大学と連携をして作業を進めていくことで合意している。</p> <p>若者が集落にいるということ自体がお年寄りの楽しみの一部になっているので、こうした機会を大事にしていきたい。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>1. 資金</p> <p>本年度も助成をいただいたことで、引き続き制作を継続することができた。来年の全景完成に向けた資金面での助成なくしてはできないこともあり、来年度もぜひとも挑戦して、助成をしていただけるように努力していきたい。</p> <p>2・活動</p> <p>2年間の制作活動で、大体のペースなどが掴めてきているので、来年度の作業内容はイメージできる。しかし、N-LINKのリーダーが卒業することもあり、連絡体制などについて検討していく。</p> <p>3. 集落の希望</p> <p>来年度この活動は一定の終了を迎えるが、あちこちで「あのシャッターにも描けないか?」「家のにも描いてくれないか?」などの意見が出始めており、今後どのように集約していくのかは検討する必要がある。</p>

平成24年度長岡市地域コミュニティ事業補助金交付事業の途中経過

団 体 名	本町通り復興活性委員会
事 業 名	よってげてえふれあい市活性化事業
事業実施の目的 (目的 現状 課題 必要性)	【目的】 平成19年4月より開催しているよってげてえふれあい市は今年で6年目を迎え、川口地域住民に定期市として定着してきている。しかし、近年、参加者が定着化してきているため、新たな客層を呼び込むため、各種イベントを行いながら、地域内外のコミュニティを深めたい。 この事業を行うことにより、東川口地区内外の交流促進が更に図られると考える。
事業内容 (実施月日 実施場所 参加者数 実施内容等)	毎月第3日曜日、午前10時から午後2時に、東川口本町通りを歩行者天国（冬季はよってげ亭敷地内）にしてよってげてえふれあい市を開催。集客・交流イベントとして以下の事業を予定。 5月20日：よさこい踊り、ヒップホップダンス 6月17日：にこぱ〜く花植え 7月15日：通常開催 8月19日：鮎つかみどり 9月16日：通常開催 10月21日：通常開催 11月18日：コミュニティパークオープンイベント 12月16日：通常開催 1月20日：新春イベント（穴水町カキサービス） 2月17日：通常開催 3月17日：通常開催（予定）
事業完了予定日	平成25年3月17日



5月20日よさこい踊り



10月21日黄色いフラッグ作成